

SSRI

ちょっと一言

Give me a break !

「米朝首脳会談」中止の理由は北朝鮮の「約束破り」

樋口 譲次

トランプ米大統領は5月24日、6月12日にシンガポールで予定されていた「米朝首脳会談」を中止すると表明した。

その成行きは、ペンス米副大統領の発言に対する北朝鮮外務次官の対応が直接的な引き金になったと見られているが、背景には北朝鮮の「約束破り」が重なったことで、ホワイトハウス内部に北朝鮮への不信感が広がったことが大きな理由であろう。

トランプ政権高官によると、米朝は、首脳会談準備のために今月上旬にシンガポールで実務者級会合を設定していたが北朝鮮代表団は姿を見せなかった。また今週末に、ヘイギン大統領首席補佐官代理らホワイトハウス当局者がシンガポール入りし、北朝鮮政府当局者と首脳会談の議事進行などを含めた詳細について協議する予定だった。しかし、北朝鮮側は連絡すらよこさず準備会合を無断欠席し、米側に待ちぼうけを食らわせた。

ポンペオ米 국무長官は5月24日、米朝首脳会談の準備に関する米国側からの問い合わせに対し、北朝鮮がここ数日は応答していなかったことを明らかにし、上院の公聴会で「首脳会談の成功に向け両国のチームが進める必要な準備が滞っていた」と述べている。

ホワイトハウスは、北朝鮮の米韓合同軍事演習に対する抗議と、南北閣僚級会談を突然中止したことも、北朝鮮が米朝首脳会談に向けて約束したことの違反とみなしている。また米高官は、北朝鮮が核実験場の廃棄への国際監視団の立ち会いを認めなかったことで、さらに信頼が損なわれたと指摘している。

「米韓首脳会談」直後の「米朝首脳会談」中止の表明に、仲介役を自認する韓国の文大統領は完全に不意を突かれた形だ。

これも、過去に何度か繰り返されてきた、事態打開への期待を高めておきながら、その後、手の平を返して危機に拍車をかけ、ゴールを移動する北朝鮮の常套手段の為せる業に違いなかろう。

今後、①米朝対話が継続し、米朝首脳会談が再開される可能性があるのか、②完全に決裂し、最大限の圧力の継続から軍事オプションの発動へ向かうのか、あるいは、③北朝鮮が核保有のまま朝鮮半島は「現状維持」で危機が継続することになるのかなど、まさに予断を許さない状況が待ち受けており、今後は、これまで以上に、危うい事態への適切な対応が求められる正念場となるだろう。（2018年5月25日）